

令和7年度 施設管理運営事業評価票(令和6年度実施分)

1 評価対象施設

公の施設の名称		宝塚市立文化施設(ベガ・ホール、ソリオホール)			
所在地		宝塚市清荒神1丁目2番18号、栄町2丁目1番1号			
指定管理者	団体名	公益財団法人宝塚市文化財団	指定期間	開始日	令和6年4月1日
	所在地	宝塚市栄町2丁目1番1号		終了日	令和10年3月31日
選定方法		非公募	評価実施年	指定期間5年のうち1年目	
施設設置目的		宝塚市民の芸術及び文化の向上に寄与するため、宝塚市立文化施設を設置する。			
主な実施事業		(1) 芸術及び文化活動のため、施設をその利用に供すること。 (2) 芸術及び文化の振興に関すること。 (3) 芸術及び文化活動の育成に関すること。 (4) 芸術及び文化に関する情報の収集及び提供に関すること。 (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事業			

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a 利用件数	件	5,300	4,206	5,300	4,937	5,300	5,028	5,300	4,960
b 稼働率	%	-	41	-	43	-	44	-	48
c 事業参加者数	人	-	21,205	-	28,053	-	30,324	-	28,428
d									
e									

3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区 分		令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算
収入計	A	252,679	263,412	262,932	280,741
指定管理料		179,703	174,868	181,847	203,154
利用料収入	C	48,848	59,009	56,069	48,502
自主事業収入		7,722	10,553	12,517	11,425
その他		16,406	18,982	12,499	17,660
支出計	B	258,310	263,894	276,120	292,177
指定事業費		241,558	247,071	256,959	271,981
内、人件費	D	106,085	106,789	113,073	110,654
内、再委託料	E	57,741	60,909	60,048	62,486
自主事業費		16,752	16,823	19,161	20,196
事業収支	A-B	-5,631	-482	-13,188	-11,436
利用料金比率	C/A	19.3 %	22.4 %	21.3 %	17.3 %
人件費率	D/B	41.1 %	40.5 %	41.0 %	37.9 %
再委託費比率	E/B	22.4 %	23.1 %	21.7 %	21.4 %

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	出向市職員 再任用1 決算については、消費税の会計処理は税抜方式を採用 収入のその他には受取補助金を含む
------	--

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。 必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A A	A A
	外部委託	事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。 外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。 外部委託業者に対して協定書等を遵守させている。	A A A	A A A
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	A
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令等を遵守している。 個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。	A A	A A
	情報公開	情報公開に関する法令等に準じた運用を行っている。 協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A A	A A
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。 点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A A	A A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。 市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A A	A A
	緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。 緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。 緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	A A A	A A A
	財務状況	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A
② サービスの質の評価	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	A A	A A
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。 利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。 言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	A A A	A A A
	事業運営	事業計画に即し、受託事業を実施している。 施設の目的に添った自主事業を実施している。 事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	A A A	A A A
	維持管理	仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。 仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。 備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。 協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A A A A	A A A A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	A	A
	広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。 要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告している。	A A	A A
	利用者アンケート等	利用者アンケート調査等を実施し、その結果が妥当である。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、目標に対し妥当な水準である。	B	B
	《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A
③ 安定性	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	A	A
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	A	A
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	A	B
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設 項目】	A	A
指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	宝塚市制70周年を迎え、施設で開催された様々な周年記念イベントへの運営協力を行ったほか、文化財団自身も設立30周年を迎え、記念の年を彩る事業としてホールの特色を活かした公演等を実施し、好評を博した。 ベガ・ホールにおいては、リニューアル後、初開催となる「宝塚ベガ音楽コンクール」を、ピアノ・声楽・木管の3部門で開催した。コンサート事業では、井草聖二ソロギターライブ、錦織健テノール・リサイタルなどを開催し、新たな客層の開拓や公演へ子どもたちを招待する取組を進めた。 ソリオホールにおいては、他地域の自治体や文化財団との共同制作により新作舞台の創造・上演や関連ワークショップを実施、共催公演など、ラインナップの充実を図った。 また、設備更新工事(ベガ・ホール空調設備、ソリオホール音響設備)による長期休館の際、利用者への影響を最小限に留めるよう対応・調整を行った。2施設ともに老朽化が進み、不具合箇所も増加しているため、適宜、修繕や予算要求を進めるとともに、想定される大規模修繕による長期休館に向け、適切に対応できるように備えていくことが必要と考えている。 今後も光熱水費や委託料等の高騰による支出額の増加が見込まれるため、経費圧縮のほか、収入の増加により収支バランスの改善に努めていく。			
施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)	指定管理者所見のとおり、市制70周年記念事業における市への協力や、指定管理者自身も様々なイベントを企画、運営し、子どもに文化芸術を体感する機会の充実に務めた点について評価する。施設の管理運営においては、市と連携を取りながら、老朽化による設備更新に備えた調整を円滑に行った。一方で、事業参加者数や利用件数は工事による施設休館の影響があるものの、目標値に届かなかったことや、物価高騰などにより経営状況が赤字となっている点についてはB評価とした。令和7年度以降は、集客や収支の改善に取り組むとともに、市民の芸術文化活動の拠点施設として、なお一層努力していただくことを期待する。			
前年評価	A	総合評価	A	

※評価区分

評価基準:	S	=	協定書等の水準を大きく上回っており、優良である。
	A	=	協定書等の水準を満たしており、良好である。
	B	=	協定書等の水準を満たしているが、一部改善が望ましい。
	C	=	協定書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。
《総括》:	S	=	評価基準が全てA以上であり、かつSが過半数である。
	A	=	評価基準のうちBが3割未満で、Cがない。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S	=	自己評価、所管評価の《総括》にB・Cが含まれず、かつSが過半数である。
	A	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、Bが2つ以下である。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。